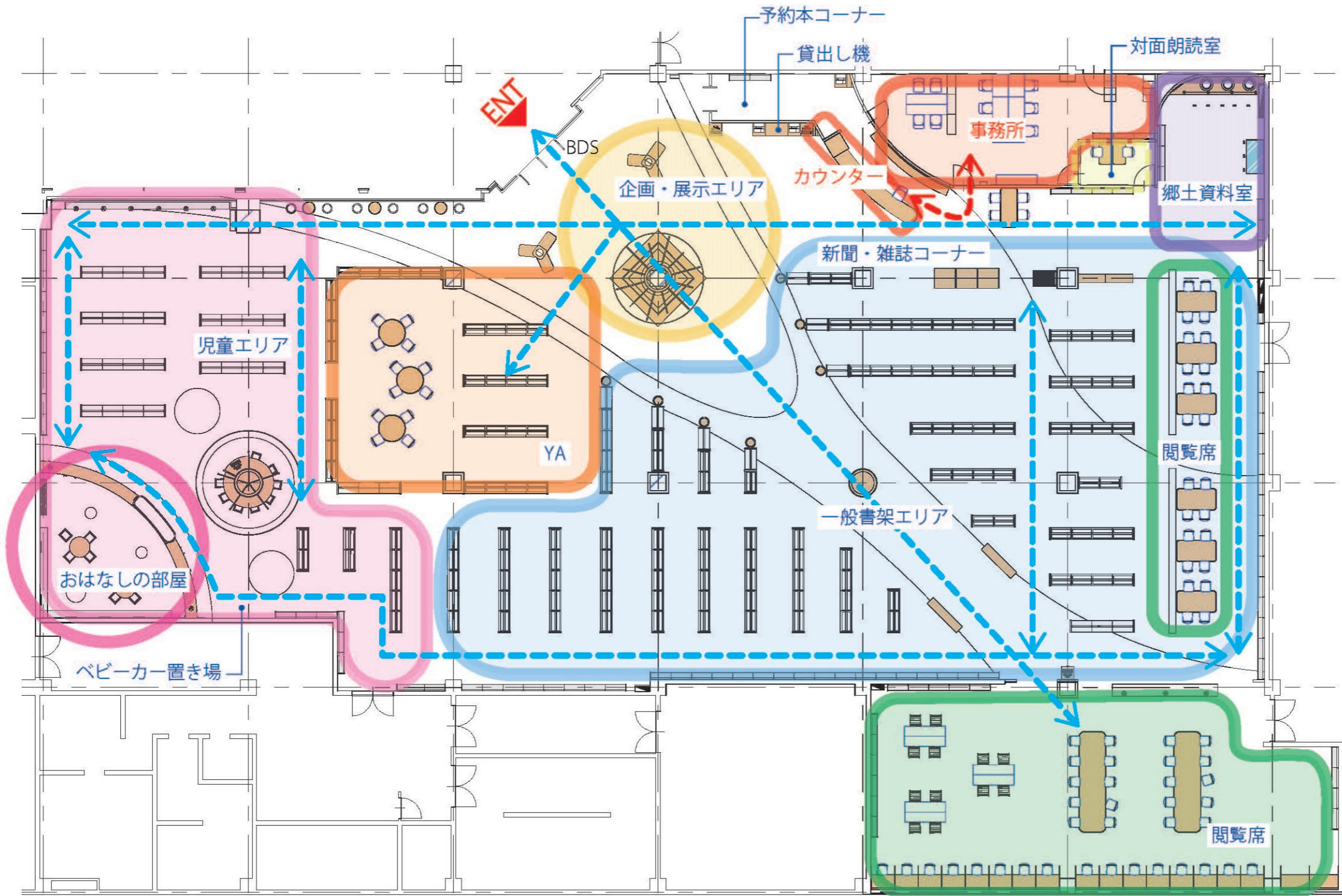




■座席数

部屋名	席数
一般書架エリア	24席
	6席
	7席
	4席
	6席
	4席
	計51席
読覧席エリア	50席
ヤングアダルト (YA)	12席
対面朗読室	2席
児童エリア	8席
おはなしの部屋	8席+3席(スツル)=11席
合計	134席



■利用者与管理動線の考え方
 ワンフロアで隅々まで見渡せ、わかりやすい動線づくりを心がけています。主動線を壁際にサーキット状につくり、また奥の閲覧エリアにも直接いけるように斜めの動線も確保しています。まわりやすく、本が選びやすい、利用者様にも管理者様にも使い勝手の良い図書館を目指します。

	利用者動線
	管理動線

■基本方針

- (1) 多世代にやさしい図書館にします
- (2) 郷土の歴史や文化を支え、伝えます
- (3) 「知」との出会いを楽しむ場
- (4) くつろぎと憩いの場所にします

⑤ 児童エリア（おはなしの部屋）

- ・親子がゆっくり向き合える居場所づくり
- ・子供が身近に本にふれあえ、本を好きになる図書館づくり



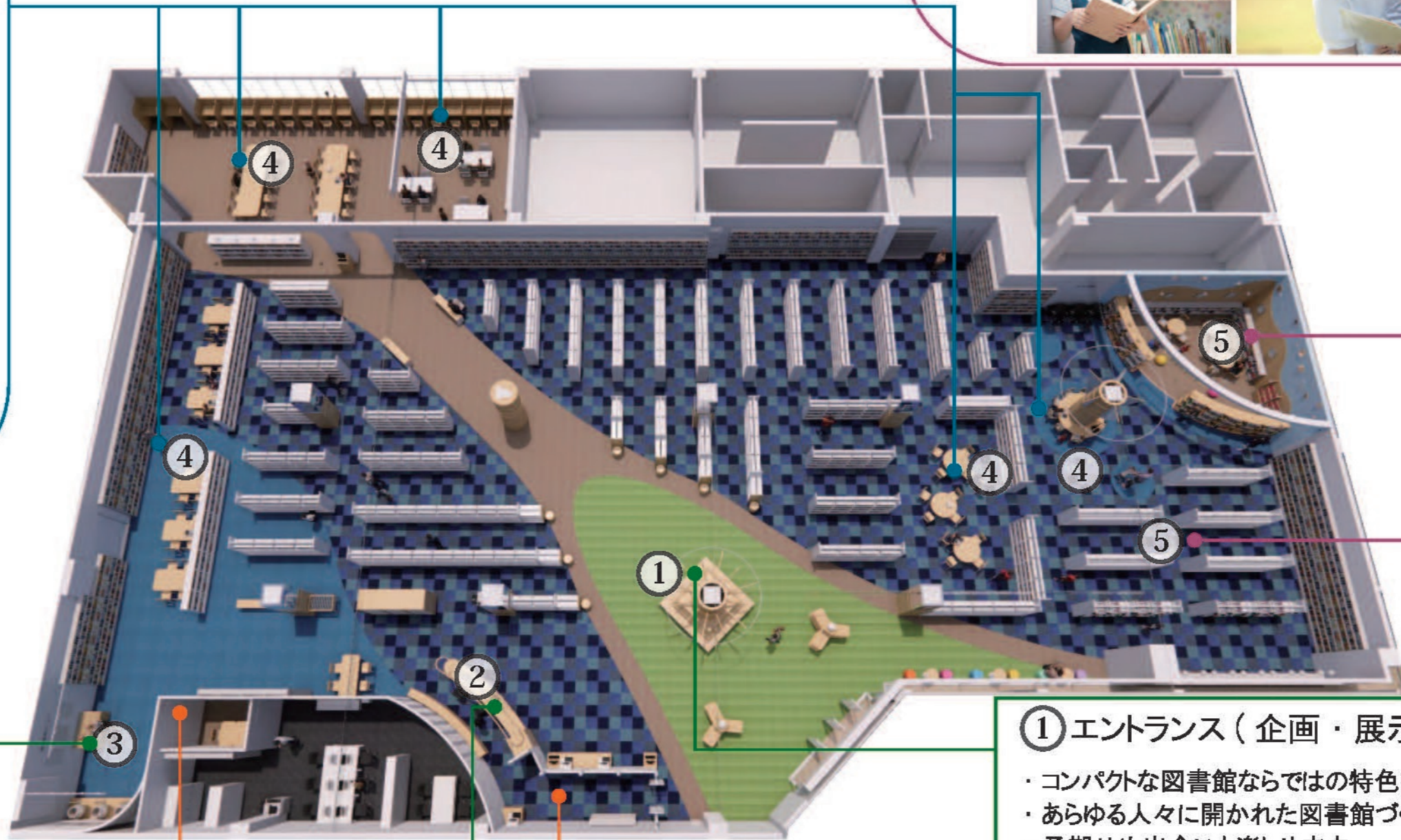
子ども
子育て世代への
サービス

④ 閲覧席（各エリア）

- ・ひとりで没頭できる場
- ・みんなでゆっくり過ごせる場



若い世代
成人，高齢者への
サービス



対面朗読室
障がい者へのサービス

予約・リクエストサービス

③ 郷土資料室

- ・アーカイブ（保存）機能を充実させます
- ・文化財と「自然の宝庫ふつつ」をアピールします
- ・収集した資料を発信し、郷土愛を醸成します

② カウンター

- ・暮らしや仕事に役立ちます
- ・目的の図書に出会えるよう、司書がお手伝いします
- ・情報への橋渡しをします
- ・レファレンスサービス

① エントランス（企画・展示エリア）

- ・コンパクトな図書館ならではの特色を充実させます
- ・あらゆる人々に開かれた図書館づくり
- ・予期せぬ出会いも楽しめます



全世代への
サービス



あらゆる人々に開かれた図書館を目指す為、ファサードは気軽に立ち寄れるように解放感のある構えとしています。また、児童エリア側の壁面には額縁をつくり楽し気な雰囲気ファサードまで滲み出るよう演出しています。



エントランスは富津岬をイメージしたグリーンが図書館の奥まで利用者様を引きこみます。岬の先には展望台を模した企画・展示台エリア、テラポッド型の什器などがあります。ここから図書館全体を見渡すことができるモニュメントとしての役割も担います。



入口を歩いて左手すぐにカウンターがあります。利用者様が分かりやすいように上部に曲線の造作とサインを設け目留まりとしています。貸出し機や返却ボックスなどもカウンター横の目の届く範囲に設置され管理しやすい配置となっています。



郷土資料室には市内で出土した遺物を紹介する展示台や収集した資料を展示するケース、書架を設置しています。開けた空間で富津市の郷土への理解を深め地元へ愛着を育んでもらえる環境を整えます。



閲覧席（個人席）



閲覧席（グループ）



YA



個人閲覧席（入口）

図書館の一番奥にはひとりで作業や読書に没頭できるキャレル席（個人閲覧席）スペースがあります。窓からの採光も取れる奥まったエリアにあるため、静かにゆったり過ごすことができます。他にも複数人で利用できる長テーブルや、キャスター付きの可動式テーブルを用意しています。また、一般書架エリアや雑誌架付近にもグループ閲覧席を用意しています。YA（ヤングアダルト）エリアにも席を設け、学生たちが勉強に集中できる環境を整えています。あらゆる世代が利用しやすく居心地の良さを感じて頂ける空間を演出します。



児童エリア

児童エリアは海に浮かぶ船をモチーフにデザインしています。シンボリックな帆の柱の周りにはこども用の閲覧席を設けています。木の温かさに包まれた空間で魅力ある本へ親しみや興味、関心を育てて頂き本と触れ合う機会と環境づくりの充実を図ります。



おはなしの部屋

船内をモチーフにした書架棚は大人の目線から中の様子を見ることができ、親子さんが見守りながら楽しく安心して過ごせる場を提供します。本棚で区切られた空間で周りを気にせず、読み聞かせのイベント開催や親子がゆつくり向き合える“場”と“機会”を提供します。